

# JNEP news

Japan Network for Earth Environment and Prevention of Pollution (JNEP)

公害・地球環境問題懇談会

<http://www.jnep.jp/>

## 気候危機に立ち向かう

### 第6次エネルギー基本計画「パブコメ」に取り組む



9月24日 経済産業省前にて世界気候アクションに参加した公害・地球懇

#### 目次

#### 気候危機に立ち向かう

#### 第6次エネルギー基本計画「パブコメ」に取り組む

考えよう気候危機～明るい未来のために～.....	2
パブコメにチャレンジ! 学習して分かった! .....	4
気候危機について.....	5
地球温暖化の先駆的な研究者	
ノーベル賞受賞の真鍋淑郎さんと私.....	6
JNEP情報.....	10
活動日誌.....	11
ネモやんの福島便り.....	12

## 考えよう気候危機～明るい未来のために～

第51回八王子母親大会実行委員会 松本華子

9月26日、第51回八王子母親大会は「考えよう気候危機～明るい未来のために～」と題し、ZOOMでも参加できるハイブリット方式により開催しました。

昨今の深刻化する異常気象、そして、現在のコロナ禍も気候危機と密接な関係があるとも言われています。

会場ナビゲーターに公害・地球懇の橋本良仁さん、ZOOMゲストにグレタ・トゥーンベリさんの活動に呼応して立ち上がったFridays For Future TOKYO/JAPANの阪田留菜さん(大学1年生)、山本大貴さん(高校3年生)、そして、福島原発被害者の鴨下全生さん(大学1年生)にご参加いただき、気候危機について考えました。

10代の若者が訴える、「エコバックを持つ、ペットボトル飲料を買わないといった“ちょこっとエコ”では不十分、“気候正義”(気候変動の影響や負担、利益を公平・公正に共有し弱者の権利を保護するという人権的な視点)をもって政策決定権者に対し、道徳的な圧力をかけ、科学に基づいた政策を実行するように求めることが重要である」「パブリックコメントに投稿する、スタンディングに参加する、選挙に行き“気候正義”をもった候補者に投票をするということを広げ、行動することが地球を守ることに繋がる」の力強いメッセージに衝撃を受けました。

また、福島原発事故による被害は甚大なもので、10年以上経った今も、被害者の苦悩は続いていることを伺うことができました。原発はCO<sub>2</sub>をほとんど排出しないため、クリーンエネルギーと政府はいいますが、放射能汚染を起こす危険性があり、さらには、放射性廃棄物処理の問題もあります。

脱原発・脱石炭を成し遂げ、美しい地球を子どもたちに残すために今、行動が必要です。なお、母親大会の様子は、DVD化し、八王子母親連絡会から貸し出しできるよう準備をしています。ぜひ学習会にお役立てください。

### 若者たちの感想

Fridays For Future Tokyo  
阪田留菜



この度はご招待いただきありがとうございました。このような場で発言する経験がなく、上手く話すことができなかつたのですが、みなさんの心に何か残っていれば光栄です。先日、世界10ヵ国の若者の9割が気候変動に不安を抱いていることがわかったというニュースがありました。気候危機は今政治や社会の仕組みを作っている人よりも、若者に影響が大きいです。日本でFridays For Futureの活動が盛り上がっているのも「私の未来を壊したくない、壊されたくない」という思いが大きいと感じます。

私が今回お伝えしたかったのは「個人の変化では不十分で、社会の仕組みを変えることが必要」ということです。気候変動は大変スケールの大きい話で、自分だけでは解決できない、と思う人が多いと思います。私は、気候変動を解決するにはより多くの人を巻き込んで協力することが必要だと信じています。もし気候変動に危機感を持っている人がいたら共感してあげてください。そして、1人でも多くの人と気候危機の話をしてください。

がんばりましょう！引き続きよろしく願いいたします。

## Fridays For Future Tokyo 山本大貴



私は、私と全ての人の命と健康を守るために、より効果的で大胆な気候変動対策を求め、ムーブメント「Fridays For Future」で声を上げています。イベントに登壇した若者は、普段一緒に活動している阪田さん、3.11被災者として反原発を訴え気候ムーブメントにも関わりがある鴨下さん、そして私。それぞれが全く違う場所で生まれ育ち、オリジナルのストーリーを持っていながらも、「協力して問題を訴えよう」という部分で繋がっていくのが印象的でした。

ムーブメントに参加する人たちが抱いている思いは、同じようで、一人一人が全く違います。自分が考えていることを人に伝えることはできても、同じ人間になることはできません。でも、出発点や価値判断の基準は違えど、許せないことや諦められないことを共有したとき、そこで連帯が生まれます。

思いを伝えることでそこに「共感」を集めることはできますが、相手に「私自身」を強制することはしません。それぞれが日々を送る中で育んだストーリーを持ち寄って、そして「みんなのストーリー」を紡いでいく。そうやってムーブメントを広げていけたら、と改めて思うことができました。

## 福島原発被害東京訴訟原告 鴨下全生



先日は僕の拙い訴えに耳を傾けてくださって、ありがとうございます。また、署名にも沢山の方に協力していただき、本当に感謝しています。

コロナ禍の中、会場に来てくださった方、準備に奔走してくださった方、オンラインからアクセスしてくださった方、皆さまの温かい応援に支えられて、無事に報告をすることができました。感謝いたします。最悪最大の公害事件と言われる福島原発事故は、国と大企業による人災。故に、被害の実態は巧妙に隠され、訴える被害者の声は国家によって否定され、事実や言葉が歪められてきました。実際、この10年に起きた数々の理不尽は、水俣病を始めとする公害事件と酷似しており、被害にあった僕らは今もそれに抗い続けているのです。

一方で250km離れた東京にも、いわゆる『黒い雨』は降り、水道水も汚染されました。そして今でも、東京の土や生態系の中には、当時降り注いだ放射性物質が残っています。だから僕は、東京の人たちも又、この事件の当事者だと思っています。

原発事故は放射能汚染と被曝の問題であり、僕らの未来をおびやかす公害です。今後は是非、僕らを沿道から応援するのではなく、同じ場所に立って一緒に闘ってください。よろしく願いいたします。

### 参加者の感想から

- ▶ 橋本さんの熱い想いの講演、若い三人のゲストのメッセージは心に響き、とても良かった。今の私たちが直面する緊急の問題を取り上げた時宜にあった素晴らしい母親大会でした。とりわけ若い人たちの発言は素晴らしかった。
- ▶ 若い人たちの活動に心から感動しました。本当に日本も捨てたものではない、シルバーの私たちも頑張らねばとの勇気を貰いました。鴨下さん、大変困難な状況の中で頑張っておられますね。原発を許さない社会になるようお互い頑張りましょう。(この他にも多数の感想が寄せられました)

## パブコメにチャレンジ！学習して分かった！

新日本婦人の会足立支部 美濃山智子

9月24日は「世界気候アクション」の日でした。「気候危機見て見ぬふりはもうできない」と世界中の若者たちが温暖化対策を求めて行動しました。

私たち新婦人足立支部では、中央本部からの「政府の第6次エネルギー基本計画についてパブリックコメントを出そう」という呼びかけに応じて、9月29日(水)に緊急にオンライン学習会を実施しました。題名は「見て見ぬふりはできないーみんなでパブコメを出そう」緊急の提起でしたが、9名が参加して学習しました。

第6次エネルギー基本計画の解説を産業技術総合研究所の歌川学さん。公害・地域環境問題懇談会幹事の奥田さが子さんは、外国の状況や、実際にパブリックコメントを書くときの方法や注意についてお話してくださいました。

むずかしい内容でしたが、印象に残ったことをまとめます。地球温暖化を止めるためには温室効果ガス排出量を早急に削減していくことが必要、日本も2030年までに46%削減としていますが、他国とくらべると緩い目標です。さらに産業界、大企業などには努力を求めるだけで、罰則規定などはありません。再生可能エネルギー導入をすすめ、エネルギーの自治を地域に取り戻すことが、大切ということが語られました。

デンマークでは1970年ごろは日本と同じくらいの石油依存の社会でしたが、現在は先進国トップの取り組みです。奥田さんが「どうしてできたのか」と聞いたら「高い目標をもたなければ実現はできない」という返事だったそうです。ノルウェーではすでに4台に3台が電気自動車だそうです。国の政策、姿勢が大切、総選挙でも大切なポイントと語られました。

### 参加者の感想

「今までは身近に感じなかったけれど、オンラインで学習して大変だとあらためて思います。学習して行動する大切さ。足立区へ要請していきましょう！」

「手元に資料がなかったので、理解するのが大変だった。が！人類にとってまったなしの問題で、衆議院選挙の争点にすべきとの意見に展望が開けました。」

「レベルが高くて大変でした。でもこのままではいけない、何かできることはないか？国にどうやって求めればいいんだろう等は皆さんと同じ気持ちです。」

次の日に事務所に来た方にお話しましたら、お二人が「何かしなくてはと思っていた。」とパブリックコメント提出を約束してくれました。

### 提出したパブリックコメントより

▶ 温暖化対策やそのカギを握るエネルギーのあり方などを審議する場合に、環境団体や温暖化の影響を最も受ける若い世代、先進的な実践を行っている自治体などが、参加し意見を反映させる機会がほとんど保障されず、限られたメンバーによってのみ審議され、案がまとめられています。市民が意見を表明する機会が最終段階での形式的なパブリックコメントだけで、ほとんど政策に反映されません。審議会参加やインターネット配信、公聴会、市民参加の討論会や、世論調査など市民の声が反映させる仕組みを構築し、参加する機会を保障すべきです。またパブリックコメントを実施することをマスコミで報道することなど検討すべきです。

- ▶ IPCCの第6次評価報告書では「世界の平均気温の上昇を産業革命前に比べて1.5℃に抑えなければ、地球環境が破壊的な状況となる」と指摘しています。EUは2030年目標を1990年比で55%減、ドイツ65%、英国68%と削減目標を引き上げています。日本は1990年比に換算すれば、40.3%減にしかありません。

日本でも温暖化による異常気象で災害が頻発し、多くの犠牲者を出しています。温室効果ガス排出は世界5位と聞いています。地球を守り、住み続けられるために、政府は何よりも優先して温暖化対策をしてほしい。目標を上げて行動することを約束し、国民に訴えることで、地球は守られると思います。これからも、支部として、学習や要請をしていきたいと計画していきます。

## 気候危機について

民青同盟足立地区委員会 西之原夢真(ゆま)

いま世界中で若者が気候危機に関して不安を感じ、本気の対策をするように声を上げています。グレタさんは国連スピーチで、「あなたたちは空っぽの言葉で、私の夢とこども時代を奪いました。」と述べました。若者たちは気候危機について、将来自分たちが社会を担うことを考えたとき他人事ではられません。EUは2030年までにCO<sub>2</sub>の55%削減を目標にしていますし、イギリスは68%以上、アメリカのバイデン政権のもとでも50~52%減など、最低でも50%以上、60%台の削減目標を掲げています。

日本でも若者が気候危機に関して興味を持っていることが伝わってきます。青年団体で行ってきたシールアンケート&対話では、中学生や高校生が気候危機のところにシールをはる人が多いのです。未来の社会を担う若者が自分ごととしてとらえているのは希望です。

世界の平均気温の上昇を1.5度以下に抑えるためには、いまの政府のCO<sub>2</sub>削減目標は低すぎます。世界各国で掲げている目標は2030年までに50%から60%なのに、なぜ日本は42%という後ろ向きな姿勢なのでしょうか？

口先だけの政策では気候危機を打開することはできません。そのほかにも、石炭火力発電をさらに9件大規模建設する計画があること、原発再稼働を推進していることなど気候危機を打開する道とは逆行しています。

目標とする2030年まであと9年しかありません。この限られた年数で、このままの政治を続けていていいのでしょうか。私はNOと言いたいです。CO<sub>2</sub>削減への思い切った政策を実現するためには自公政権ではできません。新しい政権交代を実現してこそ、いまの地球を守ることができると思います。

気候危機の打開は、貧困と格差をただず改革と一体で取り組まなければなりません。目先の利益だけを追求する新自由主義、財界いなしの政治をただし、国民のくらしと権利を守るルールある経済社会でこそ、脱炭素化を目指す社会システムへと変えることができます。自公政権に代わる政権交代こそ、気候も私たちの暮らしも守る持続可能な社会である希望を伝え、総選挙でどんどん対話していきたいです。

## 地球温暖化の先駆的な研究者

# ノーベル賞受賞の真鍋淑郎(しゅくろう)さんと私

元気象研究所室長・理学博士 増田善信



### 1、真鍋さんと私

真鍋淑郎プリンストン大学上級研究員がノーベル賞を受賞しました。素晴らしい快挙で、地球温暖化が叫ばれて30年。それをいち早く実証し、警告した研究者です。遅きに失した感さえあります。

私ごとですが、真鍋さんとは1950年後半からの学友です。当時は数値予報草分けの時代で「数値予報グループ」ができ盛んに活動していました。真鍋さんはまだ東京大学理学部地球物理学科気象教室の大学院生でした。たまたま、真鍋さんも私も気象教室の正野重方教授が指導教官であったことと、ともに「数値予報グループ」の一員で、東大の気象教室での月1回の例会で、よく議論を闘わせたものでした。

真鍋さんが大学に入った時は、学制改革が行われた時で、新制大学と旧制大学が共存する時代で、確か真鍋さんは新制大学だったと思います。

私が最も感心したのは、真鍋さんの研究テーマでした。日本の気候は、特に冬はそうですが、冷気が日本海を渡ってくる間に、日本海の温かい海から熱と水蒸気をもらうのですが、その多寡で気候が変わります。真鍋さんは、そこに着目して、日本海を取り巻くすべての高層観測点のデータを使って日本海の「熱収支」を求めたのです。電子計算機などもちろんありません。タイガー計算機かそろばんで求めたと思います。確かこれが卒業論文だったと思います。

1958年に卒業されたが、真鍋さんの就職先はありませんでした。恐らく、正野先生か岸保勘三郎助教授（当時）の口利きがあったと思いますが、プリンストン大学のスマゴリンスキー教授の招請を受けて渡米しました。水を得た魚のように、生き生きと研究に励まれ、ノーベル賞受賞の榮譽を得られたのだと思います。真鍋さんは「アイデアが大事。基礎研究をきちっと」が口癖でした。

今年は来なかったが、毎年、クリスマスと新年を祝う「Season's Greetings」をやり取りしています。時候の挨拶というより、お互いの研究の話で、カード一杯に書かれています。因みに、昨年1月16日の消印があるカードには、

お手紙拝見しました。今増田さんに数年前に送ってもらった本「異常気象学入門」を又読んでいます。実によくかかっていると思います。本のp3の図Aは異常気象のメカニズムを実によく実現していると思います。この図は異常な面だけでなく、ものすごい豪雨の頻度がなぜ増え続けているかを説明するのに使えると思います。日本のアメダスのデータを使えば、過去数十年間に大雨の頻度がどのように変わっているかが、手に取る様にわかると思います。このような研究の論文があればお知らせください。では、お元気で御活躍ください。

「異常気象学入門」とは私が2010年に「地球温暖化を理解するための」という副題をつけて出版した著書で、真鍋さんに寄贈したものです。真鍋さんは、わざわざ、それを引っ張り出して再読し、意見をくださったのです。本当にありがたいことです。長いアメリカ生活で、日本語もままならなくなり、漢字も古い漢字をそのまま使っておられますが、この1文からもその学問に対する探究心と誠実さににじみ出ていると思います。得難い友人を持って幸せだと思っています。



ノーベル物理学賞受賞  
の真鍋淑郎さん

## 2. 地球温暖化研究の先駆者

真鍋さんが温暖化問題の研究の最初に取り上げたのが、スウェーデンの物理化学者スバンテ・アレニウス（1859～1927年）の「二酸化炭素が2～3倍になると地球の表面温度は氷期と間氷期の差くらい暖まる」という先駆的な予言を検証することでした。一番簡単な1次元モデルで、地面気温だけでなく地球全層の気温分布を求め、実測と比較されました。

地球は常に太陽から熱をもらっています。何もなければ地球はどんどん暖まって灼熱のボールになってしまいます。幸い、地球も地球の表面温度に比例して宇宙空間に熱を放出しているのです。これを放射平衡というのですが、地球全層の気温分布はほぼこれで決まるのです。しかし、気温分布は下層が暖かく、上層が冷たいので、対流が起こる。真鍋さんは、先ず、この放射平衡と、対流の効果を入れたモデル（放射—対流平衡モデル）で、地球大気の気温分布を決めたのです（1964年）。これが、実際に観測されている気温分布と非常に良く一致したのです。

そこで、さらに水蒸気の効果も入れて、CO<sub>2</sub>の濃度が150ppm、300ppm、600ppmの大気の計算をして、300ppmの時、地上気温は15℃になり、CO<sub>2</sub>が半分の150ppmになると、1.3℃冷えて13.7℃になり、倍の600ppmになると、2.4℃暖まって17.4℃になることを明らかにしたのです（1967年）。まさに、アレニウスの予測を証明したのです。

しかし、真鍋さんはこれで満足しませんでした。大気大循環のモデルを使って、実際の地球大気に挑んだのです。

このシミュレーションには高速・大容量の電子計算機が必須です。真鍋さんの研究は計算機の発展とともに発展したと言っても過言ではないと思います。恐らく計算機の容量の関係だと思いますが、真鍋さんは、陸地と海洋が約60対40の割でまとまって分布している仮想的な北半球の数値シミュレーションに挑んだのです（1975年）。

しかし、大気大循環のシミュレーションには二つの障害がありました。1つは運動方程式の長期積分に耐えられる計算スキームの問題であり、今1つは、積雲対流のような格子間隔より小さい局所的現象の影響をパラメタリゼーションによってモデルに組み込む問題です。

これを解決したのも日本人の研究者で荒川昭雄さん（1927～2021年）です。荒川さんは1950年に東京大学物理学科を卒業されて気象庁、気象研究所、気象庁電子計算室に勤務されたのち、1961年にカリフォルニア州立大学ロサンゼルス校（UCLA）のMintz教授の招請を受けて渡米し、終生UCLAで研究され、去る3月21日に逝去されました。享年94歳でした。

これも私ごとですが、私は荒川さんとも浅からぬ縁があったのです。荒川さんが気象庁から気象研究所の私の研究室に転勤してこられたのは1952年だったと思います。1959年に気象庁電子計算機室と一緒に転勤し、数値予報の現業化に、それこそ心血を注いだ同志です。最初に予定していた予報モデルの成績が思わしくなく、最初の1年半はアメリカのモデルを使わざるを得ませんでした。

急遽、アジア地域の4層の予報モデルが計画され、その初期値になる5層の天気図を計算機を使って自動的に作るプログラム（automatic data processing（ADP）プログラム）を荒川さんと2人でつくりました。本当にこれは大変な研究でした。

しかし、この完成によって初めて日本人の手作りの予報モデルが、しかも5層の天気図を使った4層の予報モデルがルーチンの予報に使えるようになったのです。これは国際的にも初めてのことでした。

1960年11月に東京で開かれた数値予報国際シンポジウムで、私がOn the automatic data processing and the objective analysis for surface and upper level mapsというタイトルで発表しましたが、大きな反響がありました。

さて、大気大循環のシミュレーションを実行する際の障害の1つは、60日ほど積分すると、計算が不安定になって、積分をそれ以上進められなくなることでした。荒川さんは「荒川スキーム」を開発し、見事に解決したのです。この「荒川スキーム」は気象分野だけでなく、他の流体力学、天体力学の計算などにも使われています。

もう1つの積雲対流などの効果を取り入れるパラメタリゼーションの問題も「Arakawa-Schubert」スキームとして広範に使われています。荒川さんはこの傑出した2つの研究で、日本気象学会賞、日本気象学会藤原賞、米気象学会の最高の荣誉であるロスビー賞をはじめ多くの賞を得ています。もちろん、真鍋さんもカール=グスタフ・ロスビー研究賞、ブループラネット賞、朝日賞、ウィリアム・ボウイ・メダル、ベンジャミン・フランクリン・メダル、クラホード賞など、数々の賞を得ています。

閑話休題。

真鍋さんは、この2つの荒川スキームを使って、前述の仮想的な北半球で2つの大気大循環のシミュレーションを行いました(1975年)。1つはCO<sub>2</sub>を2倍にした場合、今1つは太陽の輝度が2%増減する場合です。太陽の輝度の変化で地球の大気の流れがどう変化するかも非常に興味深い結果が得られています。紙数の関係でここでは割愛します。

CO<sub>2</sub>を2倍にしたシミュレーションの結果は、こんな仮想的な北半球でありながら極めて興味ある結果を示しています。北半球の平均気温が産業革命当時と比べ2010年には約0.7℃上昇します。もっと興味があることは、極地方では約1.7℃も上昇するのです。温暖化によっ

て、雪や氷が解けるので、他の地域より早く温暖化するであろうとは考えられていたのですが、それをシミュレーションで示したのです。

もちろん、真鍋さんは正確な陸地と海洋の地球全体のモデル、すなわち、大気・海洋結合モデルで、アレニウスの「CO<sub>2</sub>が倍化すると氷河期最後の温度上昇をもたらす」の予言を実証したのです。真鍋さんから寄贈された著書—Syukuro Manabe and Anthony J. Broccoli 『BEYOND GLOBAL WARMING』

(2020) (「地球温暖化を越えて」) —には、カラー印刷で、先ず、1961～1990年と1991～2015年の地上気温差の全世界の分布図の実測図を示したうえで、降水量の年変化量のCO<sub>2</sub>倍化のシミュレーション結果と実測の分布図、CO<sub>2</sub>を2倍にした場合と、4倍にした場合の産業革命後と21世紀半ばの気温変化量の分布図、CO<sub>2</sub> 1倍、CO<sub>2</sub> 2倍、CO<sub>2</sub> 4倍の場合の雨水の流出量の年平均分布図、CO<sub>2</sub> 1倍、CO<sub>2</sub> 2倍、CO<sub>2</sub> 4倍の場合の土壌水分の年平均量の分布図、CO<sub>2</sub> 4倍の場合の3か月平均、すなわち、北半球の夏、秋、冬、春の土壌水分の分布図が示されています。

これらの図を見ると、温暖化による気温上昇も危機的になるが、中南米、ヨーロッパ、アジア大陸の東部。オーストラリア、アフリカ全域は、雨が降らなくなり、現在のサハラ砂漠と同じくらい乾燥してしまい、特に、北半球の夏には、アフリカの一部を除いて、全世界が砂漠化するという驚くべき結果が示されています。

### 3. 終わりに

この著書には、このほかにも、氷河期最後の古気候のシミュレーションや、深層海流が弱まる可能性など、重要な指摘もありますが、以上の説明だけでも、CO<sub>2</sub>の増加を放置すると、取り返しのつかない気候危機に直面する可能性があることが示されたのです。まさに、真鍋さんはそれをシミュレーションという手法で具体的に示し、警告し続けてきた先駆者です。



この真鍋さんの研究に触発されて、1988年、ジェームズ・ハンセンが米議会で温暖化の危機を訴え、1990年、IPCC（地球温暖化に関する政府間パネル）第1回評価報告書（AR1）が発表されたのです。真鍋さんはその執筆陣に加わっています。

去る8月9日に発表されたIPCC第6次評価報告書（AR6）は、①人間の影響が大気、海洋及び陸域を温暖化させてきたことには疑う余地がない、②人間起源の温暖化は、世界中の全ての地域で、多くの気象及び気候の極端現象にすでに影響を及ぼしている。熱波、大雨、干ばつ、熱帯低気圧のような極端現象について観測された変化に関する証拠、及び、特にそれらの変化を人間の影響によるとする原因特定に関する証拠は、AR5以降、強化されている、③世界平均気温は、報告で考慮した全ての排出シナリオにおいて、少なくとも今世紀半ばまでは上昇を続ける。向こう数十年の間に二酸化炭素及びその他の温室効果ガスの排出が大幅に減少しない限り、21世紀中に地球温暖化は1.5℃及び2℃を超える、と警告しました。

しかし、資源エネルギー庁が7月21日に発表した第6次エネルギー基本計画（素案）は「2050年カーボンニュートラル、2030年の46%削減、更に50%の高みを目指して挑戦を続ける新たな削減目標（2021年4月表明）の実現に向けたエネルギー政策の道筋を示す、としているだけでまったく具体的でないうえ、原発は温存、石炭火力は「水素・アンモニア発電やCCUS/カーボンリサイクルによる炭素貯蔵・再利用を前提とした火力発電などのイノベーションを追求」と称してそれができるまでは温存どころか増設さえ認めています。まさに、国際公約に反するものになっています。

10月31日に総選挙が行われます。政党で気候危機打開のための政策を発表しているのは日本共産党だけです。共産党は9月1日、「気候危機を打開する2030戦略」を発表しました。この政策は、①気候危機というべき非常事態-CO2削減への思い切った緊急行動が求められている、②「口先だけ」の自公政権-4つの問題点、③日本共産党の提案 - 省エネと再エネで、30年度までに50~60%削減、④脱炭素、省エネ、再エネを進める社会システムの大改革を、⑤脱炭素と貧困・格差是正を二本柱にした経済・社会改革で、持続可能な成長を、⑥訴え「気候危機打開へ - いまの政治を変えるために力を合わせよう、からなっています。

2018年8月、韓国の仁川で開かれた「IPCC1.5℃特別委員会」は、気候危機を訴え、「1.5℃までに残された年数は僅か10年しかない」ことを示し、それを達成するには社会システムを変える必要があることを強調しました。AR6は、残された時間は10年でなく15年であるとしながらもこれを引き継いだものになっています。社会システムを変えることは、今すぐ資本主義を社会主義に変えることではありません。「2030」構想では、気候危機打開には「財界いいなりの政治を変え、石炭火力利益共同体、原発利益共同体の抵抗を排除し、新自由主義の政治の根本的な転換」が必要なことを訴えています。政治を変えさえすればいいのです。

私は、この「2030」構想を全面的に支持します。ただし、追加することが1つあります。それはモントリオール議定書の成果を今一度想起させることです。1970年代ごろからフロンガスが増え、南極のオゾンホールが拡大し、紫外線を吸収するオゾンが減り、皮膚がんが増えるのではないかと懸念されたのです。



そこで、1987年オゾン層を保護するための条約、モントリオール議定書がつくられフロンガスが全面的に禁止されました。その結果、やっとオゾンホールが縮退傾向になり、皮膚がんの危険が叫ばれなくなりました。このことは、地球規模の環境を守るためには、国際的な規制以外にないことを教えています。同時に、地球規模の環境は短時間で壊れるが、回復するには時間がかかることも教えています。

気候危機の原因はCO<sub>2</sub>です。CO<sub>2</sub>を減らし、ゼロにしさえすれば防げるのです。国際的なCO<sub>2</sub>規制条約（パリ協定）もできています。モントリオール議定書の成果に学んで、パリ協定を確実に実行させようではありませんか。

その点では、日本の責任は重大です。国際的にも恥ずかしい第6次エネルギー基本計画（案）しか提示できない政府です。政府を変える以外にありません。幸い、10月31日には総選挙があります。市民連合と4野党の「野党共通政策」の中には「地球環境を守るエネルギー転換と地域分散型経済システムへの移行」が入っています。真鍋淑郎さんのノーベル賞受賞に応える政治（政権）が実現することを心から願っています。



## JNEP情報(2021年10月)

### 国連人権理事会、汚染水放出時期尚早

国連の有害物質と人権担当のオレアナ特別報告者は国連人権理事会で、福島第一原発処理水の海洋放出は時期尚早と報告、環境アセスメントの実施が必要とした（報道による）。

また国連人権理事会は環境に関する人権決議を採択した。日本政府は棄権した。

### 中国が石炭輸出支援停止

中国は国連総会で、石炭火力海外輸出支援を停止、海外で新たな石炭火力プロジェクトは行わないと発表した。

### 英国政府、2035年発電排出ゼロ目標

英国政府は、2035年に発電からの排出をゼロにする新たな目標を発表した。

### 気候危機で目標強化など発表あいつぐ

気候変動枠組条約事務局は、今の各国目標では今世紀末に産業革命前より気温2.7℃上昇のおそれがあると報告した。

研究者などで行うクライメートアクショントラックは、気温上昇1.5℃達成には今の各国2030年目標から200～230億トン削減が必要とした。個別評価で「概ね十分」とされたのは先進国で英国だけ、日本は「不十分」とされた。

英国ロンドン大学のチームは1.5℃抑制には石炭の90%は採掘せず地下に残す必要があると発表した。

### 世界銀行、気候変動の国内移住報告書

世界銀行は気候変動被害で2050年までに2億人以上が国内で移住を強いられる可能性があるとの報告書を発表した。

## 活動日誌

## 9月

- 6日(月)◇東京あおぞら連絡会常任理事会  
 13日(月)◇公害・地球懇常任幹事会  
 22日(水)◇原発被害千葉訴訟二陣控訴審  
 (東京高裁)  
 ◇原発被害さいたま訴訟「結審」  
 (さいたま地裁)  
 24日(金)★「世界気候アクション」  
 (経済産業省前アクション &  
 オンラインアクション参加)  
 25日(土)◇原発被害者全国支援ネットワーク

## 10月

- 2日(土)◇大気汚染測定「東京報告集会」  
 6日(水)◇原発被害津島訴訟7・30判決行動  
 ①東電前行動～  
 ②東電交渉(代表30名)～  
 ③院内報告集会  
 7日(木)◇東海第二原発首都圏ネットワーク  
 8日(金)◇eシフト定例会合  
 9日(土)◇公害・地球懇常任幹事会  
 ◇第5回「原発と人権」集会・  
 メディア分科会  
 14日(木)◇第46回公害総行動・継続交渉  
 「要求提出」(内閣官房申入れ)

## &lt;地域の取り組み&gt;

## 八王子

- 9月26日(日)◇八王子母親大会主催  
 「考えよう気候危機—  
 明るい未来のために」  
 9月29日(水)◇新婦人足立支部主催  
 「見て見ぬふりはできない—  
 みんなでパブコメを出そう」

## 今後の主な予定(10～12月)

## 10月

- 22日(金)◇公害総行動拡大事務局会議  
 10月30日～11月12日  
 ◇COP26(イギリス・グラスゴー開催)

## 11月

- 6日(土)◇公害弁連結成50年  
 「シンポジウム」「総会」  
 (四谷・プラザエフ)  
 ★COP26の「市民アクション」  
 17日(水)～19日(金)◇公害・地球懇  
 「第2回幹事会」(日程調整中)  
 26日(金)～27日(土)◇公害総行動実行委員会  
 「集中討議」

## 12月

- 4日(土)★第31回「環境公害セミナー」  
 (公害・地球懇/病体生理研究所共催)  
 (公害・地球懇結成30周年行事)

## &lt;地域の取り組み&gt;

- 10月21日(木)◇大学での出前講座(1)  
 11月11日(木)◇大学での出前講座(2)  
 牛久  
 10月30日(土)◇牛久環境学習同好会主催  
 「ふるさと津島(DVD)上映 &  
 裁判報告学習会」  
 11月20日(土)◇ストップ温暖化!牛久の会主催  
 「ストップ温暖化!  
 未来へつなぐ牛久のつどい」  
 さいたま  
 12月18日(土)◇AALAさいたま主催  
 「ストップ温暖化!さいたま集会」

発行 : 公害・地球環境問題懇談会  
 (公害・地球懇/JNEP)  
 連絡先 : 〒160-0022 東京都新宿区新宿2-1-3  
 サニーシティ新宿御苑10F  
 TEL 03-3352-3663  
 FAX 03-3352-9476  
 郵便振替: 00140-1-80892  
 URL : <http://www.jnep.jp/>

ネモやんの福島便り

## 第60回：「野党共闘から5年、 福島の市民連合の歩み」

「生業（なりわい）・福島原発訴訟」原告 根本 仁

7年8か月に及んだ第二次安倍政権から1年余りの菅政権、そして10月21日で任期満了となる衆議院選挙を岸田内閣で闘う選択をした自公政権。

5年前の2016年、憲法無視の安倍政権打倒を掲げ、全国の市民連合が野党共闘で初めて闘いを挑んだのが7月10日投開票の参議院選挙でした。私も「ふくしま市市民連合」の共同代表として、初めて政治活動に手を染めました。参院選福島選挙区は自民党公認で現職法務大臣の岩城光英氏と民進党現職の増子輝彦氏との事実上の一騎打ちとなりました。福島の選挙戦は、「ふくしま県市民連合」の立ち合いで県内野党と候補者の「参議院選挙に関する合意確認書」4項目に合意することからスタートし、共産党福島県委員会は前もって立候補を表明していた候補者を辞退させ、初めての野党共闘に参入しました。選挙結果は3万票差で初の野党共闘統一候補が当選を果たしました。

翌年2017年の衆議院選挙では福島の5小選挙区の予定候補者が「希望の党」騒動で合流する者、合流を拒否し無所属で立候補する者などで大混乱の衆議院選となりました。私の受け持ちの福島市や相馬市などの選挙区である福島1区は「希望の党」の綱領に共感できずに無所属で立候補した金子恵美氏が、自民党現職の候補と対決。「ふくしま県市民連合」との「政策合意確認書」を取り交わすことは出来ませんでした。共産党福島県委員会が自党候補者を下ろして支援することが決まり、福島では唯一野党共闘の形がとれました。共産党の志位和夫委員長も応援に駆けつけて下さり、お陰様で1万3千票差で勝利。

野党共闘3度目は2019年の参議院選。2018年5月に結党した国民民主党から女性候補が統一候補となり、自民現職の女性候補に挑むも10万票差で大敗。その原因は野党共闘勝利第一号であった増子輝彦氏が選対本部長として、野党共闘とは裏腹の言動を繰り返したことにありました。県内各野党との「政策合意確認書」を取り交わしていたにもかかわらず、大きな裏切り行為の結果でした。その後、増子議員は自民党会派入りしたことから、私たち「ふくしま県市民連合」は、かつて増子候補を県内の有権者に支持を訴えた経緯に鑑み、福島県庁で記者会見を開き、有権者の皆さんに深くお詫びするとともに、増子議員に対して直ちに参議院議員を辞職することを求める声明を発表しました。

そして今度は4度目の国政選挙の衆議院選。昨年は立憲民主党と旧国民民主党との合流があり、さらに今年に入って社民党は立憲民主党に合流するグループと残留するグループに分かれ、国民民主党に残留したグループも新たな旗揚げをするなど、県内野党の全体像や動きをつかむことは難しいものでした。

そうした中で7カ月をかけて作り上げ新たな福島版「政策合意確認書」を基に私たちは衆議院選に臨むこととなります。福島の市民連合の闘いの歴史はまだ5年余り。正念場はこれからであり、まずは出来ることから始めようというスタンスで選挙に臨もうと思っています。